

## 資 料

# バリ子ども舞踊団招聘プログラムについての報告

林 陸 雄

キーワード：国際交流，大学教育，福祉

## はじめに

このバリ子ども舞踊団招聘プログラムは桃山学院創設125周年・大学開学50周年記念事業として、学長・5学部長企画によって実現された。その経緯と内容及び結果について報告する。

そもそも、この原案は第22回国際ワークキャンプ・インドネシア参加学生によって発案されたものである。キャンプ開始の初期から、一部の学生に端を発して体調不良者が続出し、入院措置を必要とする事態となった。発病の時期・経路が不明であり、基礎体力の低い子どもたちへの感染が最も恐れられた。そこで、安全管理上やむなく、キャンプ日程を一週間短縮して早期帰国する措置をとった。帰国後の検査では、重篤な疾病に感染していない事が判明した。それだけに、安堵すると共に、所定のプログラムを完遂できなかったこと、現地の受け入れ関係者に多くの迷惑をかけたことが悔やまれてならなかった。帰国後に補完プログラムを学内外で実施し、単位認定に必要な内容と時間を確保した。とはいえ、所定プログラムの達成感が満たされず煩悶する日々が参加学生の間で続いた。そこで、引率スタッフが「挫折感が次の新たな目標とその展開へと導いてくれる。健康体であることを確認できたからといって、今からプログラムをやり直す事はできない。それなら発想をかえて、あれほど強く子どもたちとの交流を望んでいたのだから、その子

どもたちを日本に招いてはどうか。この20数年間、毎年日本から多くの学生がワークキャンプに参加し、多くの学びを得てきた。そして彼らの多くが、今度はバリから子どもたちを招待したいねと言いつつ、未だに実現していない。来年は開学50周年を迎える年だ。それを記念して、子どもたちを迎えてはどうか。毎回、アガペ・フェスティバルで子どもたちが歓迎とキャンプの成功を祈って神に捧げる踊りと演奏をしてくれる。その子どもたちに桃山学院創設125周年・大学開学50周年を祝ってバリの舞踊と演奏をしてもらう企画を君たちで立てて提案しないか。目標の不達成、挫折したが故にこそ、君たちに出来る課題だ」と励ました。そこで、第22回国際ワークキャンプ参加学生による招聘プログラムが作成されたのである。

その原案では、学内での舞踊と演奏、観光、自分たちと子どもたちの交流、自分たちの家庭でのホームステイが主たる内容であった。そこには、バリのキャンプ地で達成できなかった交流の再現が希求されていた。しかし、これでは学生たちの自己満足の達成にすぎない。50周年記念事業に相応する内容であらねばならない。バリの子どもたちにとって学びの機会であってほしい。学内外・近隣の人達にとっても交流と学びの機会であってほしい。そのような思いをこめて、「桃山学院創設125周年・大学開学50周年記念事業：日・イ国際子ども文化交流」として修正案を作成し、キリスト教センター長名で記念事業局に実施の提案をした。しかし、直ちに却下された。そこで、文学部が国際教養学部に変更されて間もないことを踏まえて、新たな国際教養学部とキリスト教センターとの共催で再提案した。しかしそれでも、却下された。却下理由は明快に文書等で下されず、口頭伝聞によるものであった。記念事業としていただいた寄付金の使用規定では、移動費や食費など消耗品費に使用する事はできない。大学独自で実施するには予算がない。バリの子どもためにそこまでする必要がない、等々であった。しかし、国際ワークキャンプは本学にとって極めて重要な教育プログラムであり、22回の長期に亘って実施されてきた歴史があり、延べ500名近い学生が参加し、卒業後に世界市民として海外で活躍する人材を多く輩出してきたこと、その相手方の子ども

## バリ子ども舞踊団招聘プログラムについての報告

たちを招き、学びを共有する事業がどれほど意義深いか、と学長及び各学部長に支援協力を依頼した。直ちに、学長・5学部長の英断が得られた。学長・5学部長連名による再々提案となり、ようやく記念事業局の裁可を得て、実現の運びとなった。

### 実施体制

プログラムの推進は実行委員会を編成して実施した。実行委員会の構成は、松浦学長を委員長として、委員に5学部長を代表して小池国際教養学部長、ワークキャンプ参加教員から看護学の川井准教授、同参加職員から石田、藤本、小司、磯チャブレン、事務局から井峯課長と植田参事、そしてキリスト教センター長の林である。事務局はチャペル事務室が担い、主に林センター長と植田参事、研究支援課から助勤頂いた石田が担当した。特に石田には会計と日程管理等中核的作業を委ねることになった。その労苦にこの場を借りて厚くお礼申し上げる次第である。なお、健康管理については大学保健室が担当して下さった。

### 来訪者

引率団長：ウィディア・アシ本部事務長イ・ヌガ・スウィクラマ氏

随行者：第2ウィディア・アシ館長フランキー・ワルダナ、ウィディア・アシ本部職員ニ・グスティ・アユ・スティティ・スダストゥリ、第5ウィディア・アシ指導員ニ・コマン・プリアニの各氏

参加児童：女子8人（12才2人、13才1人、14才1人、15才3人）

男子12人（13才2人、14才2人、15才5人、16才1人、  
17才2人）

なお、女子はバリダンスを最も良く踊れる者を3つの施設から選抜された。

男子は10曲のガムラン曲を演奏できるものが選抜された。もともとガムラン演奏には楽譜がないことを明記しておきたい。

総数24人

## 日程とプログラム

具体的な日程とプログラムを示すと、次のようになる。なお、実施時期はインドネシアの学校暦に合わせ、日本の学年末休暇に該当する6月に設定した。そのことによって、子どもたちの学習機会を妨げずにすむように配慮した。

6月20日（土）：現地出発，デンパサールにて搭乗まで待機

6月21日（日）：深夜1時半JLにて離陸，8時半日本（関空）に入国。

10時大学に到着。合宿棟を宿舍として休息。

12時大学周辺の散策をかねて沖縄料理店にて昼食

午後：ガムランとダンスの練習

16時半 チャペルにて「アガペ・フェスティバル」

参加者：学長，副学長，5学部学長，教育後援会，大学同

窓会，関係職員，ワークキャンプ参加学生，同OBG

18時 学長主催による歓迎会

6月22日（月）：AM大阪城見学。

13時桃山学院高校食堂で昼食。

PM - 桃山学院中学校での略式公演と生徒との交流。

（5・6時間目，13：50 - 16：00）

1．引率団長スウィクラマ氏「バリ島の生活と風俗」を紹介

2．バリダンスの上演・鑑賞と体験

3．桃山から合唱，吹奏楽・ギター演奏，空手の演舞披露

4．ミニ会話交流

5．校内見学

## バリ子ども舞踊団招聘プログラムについての報告

6月23日（火）：AM - 学内見学。マーガレット館食堂で昼食

南池田中にて略式公演と交流

（5・6時間目，総合的学習の時間，全校生徒参加）

- 1．生徒会長の歓迎挨拶
- 2．バリの引率者からの挨拶
- 3．南池田中学から吹奏楽・尺八演奏
- 4．バリダンス
- 5．バリダンスの体験
- 6．質問コーナー
- 7．校長からの挨拶

14：30～15：20 校内見学

6月24日（水）：AM学生が学内諸施設でリラックスタイムを実施。

昼食：マーガレット館食堂で昼食

PMガムランとダンスの練習（一般公開）

6月25日（木）：文化探訪

奈良の大仏殿見学，OBの店で焼き肉パーティ，平城宮跡と  
資料館見学

夕方にホームステイへ移動

6月26日（金）：ホストファミリーまたは学生ボランティアと文化探訪

夕刻，大学へ帰着

6月27日（土）：AMガムランとダンスの練習（一般公開）

10時博愛社訪問，同社食堂で昼食

PM略式公演と交流，その後施設内見学

家庭内暴力の被害児童に対するドッグ・セラピーの実際  
を見学

6月28日（日）：弥生の風ホールにて公演

午前：楽器の搬入，化粧，準備

（12時半開演，1時公演，3時半終演）昼食は弁当

1 時 開会挨拶，インドネシア文化担当領事の挨拶，プログラム紹介，箏踊り，子ども文楽，ガムランとバリダンス終演後，子どもたちでの文化交流

17時30分マーガレット館にてOBGと交流

歌の交換，現役学生による歌唱とソーラン舞踊，

OBによるインドネシア語の落語「なんか餅」

立食パーティ

6月29日（月）：午前：楽器の搬入，化粧，準備，昼食は弁当

カンタベリー・ホールにて公演

12時40分開演 あいさつ

12時50分講演「インドネシアの児童福祉の現状と課題」

13時40分公演「ガムランとダンス」

（弥生の風ホールの上演と同じ）

学院創設125周年・大学開学50周年を祝す祈り

ガムラン前奏

歓迎の踊り

兵士の踊り

水鳥の踊り

天使の踊り

金鹿の踊り

ガムラン終奏

14時40分開演挨拶

6月30日（火）：AM帰国準備。マーガレット館にて昼食

チャペルにて「さようならの祈り」

PM 3 時出発。5 時半JL帰国便に搭乗。

7月1日（水）：インドネシアに再入国

上記の日程による企画作業と並行して，実施に向けての必要な関係者への

## バリ子ども舞踊団招聘プログラムについての報告

依頼文書の原案を作成しておいたので、裁可と同時に実際の作業を開始した。

### 実施過程での特記事項

#### １．パスポートとビザの取得

バリ教会に招聘文書を送付し派遣の許可をえる

引率者と子どもたちのパスポートを申請する

バリの日本領事館にビザ発給の依頼文書を送付する

#### ２．チケットの手配

チケットの手配はラマ・ツアーズに依頼した。社長のイスカンダール・万亀子さんはバリ日本人会を組織され、30年に亘り日・イ交流に貢献され、外務大臣から表彰を受けている。ビザ発給に関する理解と協力について種々ご尽力いただいた。またバリで実施したワークキャンプ20周年記念式典でバリ日本人会長として祝辞をいただいている。バリでのワークキャンプ実施に関する強力な理解者の一人である。折悪しくも新型コロナウイルスが日本でも発生しその蔓延が危惧された。もし来日する子どもたちに波及する事態になれば、プログラムの緊急中止もありうる。その場合のキャンセル措置にどう対処すべきか、事務局としては身も細る思いで作業をした。ラマ・ツアーズではその間の事情を飲み込んだ上で、チケット手配を快諾いただいていた。表には現れにくい、極めて重要で貴重なプログラム推進者である事を強調するとともに、この場を借りて深く感謝の辞を述べる次第である。

#### ３．国際文化交流

一般市民向けの公演として和泉中央にあるシティ・プラザ「弥生の風ホール」で「日・イ子ども国際文化交流公演」を企画した。演目は3題である。第1に南横山地区で数年前に掘り起こされた「雨乞いの笹踊り」を3世代で公演していただいた。第2に、弥生の風ホールオープンと同時に結成された、いぶきの小学校の「子ども文楽クラブ」に公演いただ

いた。折悪しく、新学期とあって、中心となる演者が中学校に進学しており、新入メンバーでは公演する技量までには到達していない。さらに、中学校では中間試験の時期と重なっていた。だが、万難を排して元OBGの子ども文楽演者である中学生が中心となって演じてくれた。第3にバリの子どもたちによるガムラン演奏とバリダンスである。

学内ではカンタベリー・ホールにて記念講演とガムラン演奏ならびにバリダンスの公演をおこなった。講演は引率者のスウィクラマ氏が「インドネシアの児童問題とウィディア・アシの現状」について日本語で行った。舞踊公演は前奏、終奏、5曲の舞踊演奏であった。

なお、ガムランは天理大学の資料館から特別に無償貸し出しをいただいた。弥生の風ホール公演では、在大阪インドネシア領事館より文化担当領事においていただき開会の挨拶をいただいた。通訳は本学のインドネシア語講師パムンカス氏である。氏にはスウィクラマ氏の講演原稿の翻訳、奈良の文化探訪の案内など多面的にご尽力いただいた。天理大学ならびにインドネシア領事館への折衝、報道関係との対応は小池学部長が担当した。

以上の関係者への依頼と折衝に回を重ね、多くの関係者の援助をいただいた。この場を借りて厚くお礼申し上げる次第である。

#### 4. 必要経費への支援

企画について折衝を始めた当初、食費など消耗費は出費できないとの通達があったので、大学同窓会に依頼して滞在中の食費相当分50万円の寄付をいただいた。また、弥生の風ホールの使用費については教育後援会に依頼して相当額30万円を寄付いただいた。なお、弥生の風ホール使用にあたってはホールや控え室の使用費以外に舞台装置の運用費用も別途必要であった。寄付いただいた金額ではそれを十分にまかなえない事態が生じてきた。しかし、舞台技術者の方々のご理解と協力をいただいてかなり切り詰めた差配をしていただいた。この場を借りて厚くお礼申し上げます。この場を借りて厚くお礼申し上げる次第である。



## バリ子ども舞踊団招聘プログラムについての報告

なお予算措置としては、国際交流基金から渡航費230万円を、その他の諸経費270万円を予備費申請して対応することになった。関係職員の尽力によるものであり、深く感謝する次第である。

### 5. 訪問交流について

バリの子どもたちに日本の学校や児童養護施設の現状を知ってもらう目的で、そこで学び・生活する子どもたちと交流する機会を設けた。

その第1が、本学院の系列にある桃山学院中学校訪問である。時間割及び会場の都合から5・6時間目を頂いて1年生と交流した。

第2は大学に近接し、以前にも情報交換をしたことのある和泉市立南池田中学校訪問である。5時間・6時間目の総合的学習の時間を頂いて、全校生徒との国際交流となった。

第3は日本聖公会系列にある博愛社児童養護施設訪問である。

三者ともに交流の意義をよく理解され、日程を細かく調整し快く受け入れてくださった。この場を借りて厚くお礼申し上げる次第である。

### 6. ホームステイについて

国際センターからの紹介をえて、海外協定校からの留学生を受け入れてくださっているホスト・ファミリー登録者ならびに募集に応じた教職員のなかから、近隣の方に絞り、ペア単位で受け入れてくださる方をお願いした。多くの方から受け入れ希望をいただいた。申し訳ないことには、調整過程でこちらの手違いによりご迷惑をかける事態もあった。真にもって申し訳なく深く陳謝する次第である。

子どもたちにとっては、日本の家庭や家の構造・機能など、見るもの触るものが珍しく驚きの連続であったようだ。中にはウオシュレット形式の便器に驚喜し、何度も試すうちに破損させるなど迷惑をかける事態もあった。その他にも種々ご迷惑をかける事態があった。この場を借りて、深くお詫びするとともにご理解・ご協力に感謝する次第である。

### 7. 食事について

子どもたちの日常の食事は質素である。食材や調理法も異なる日本食

でご馳走攻めにあうと体調不良を招きかねない。筆者はこれまでに、寿司や刺身、みそ汁といった日本食を子どもたちに提供した経験から、子どもたちの味覚が日本と異なる事を確認している。それゆえ出来るだけ、日常の食事に近いものを提供することにした。朝食と昼食はマーガレット館の食堂に依頼し、食材と調理法について工夫をいただいた。夕食は大学に近い沖縄料理店に依頼し、弁当形式で毎夕配達していただいた。事前にバリ料理のレシピ本とバリの調味料を届け研究していただいた。

このような準備によって、子どもたちにはバリ風の食事を提供できた。イレギュラーな食事としては、桃山学院中学校と博愛社の食堂での昼食である。これはいずれも、学校及び施設での食事内容を体験してもらう意図があった。そして奈良への文化探訪をしたときには、第1回・2回のワークキャンプに参加したOBが経営する焼き肉店で、昼食会を彼に無償提供していただいた。各ブースに分かれて自分で焼いて食べる食事形式を体験してもらった。そして、ホスト・ファミリーまたはボランティア学生による一日文化探訪時の外食である。ボランティア学生たちは第22回ワークキャンプ参加学生であり、他のメンバーからのカンパを得て必要経費を全て自分たちで工面してサービスした。

## 8. 記録について

各プログラムの進捗状況をカメラ及びビデオによって記録した。

幸いなことに、本学元職員、退職時キリスト教センター事務室参事であられた赤松氏が和泉市CATVおよび西宮ビデオクラブ会員として活躍されておられる。その赤松氏に依頼して撮影編集いただいた。なお、弥生の風ホールでの撮影には、ビデオカメラを3台準備し、1台は正面最後部から固定で撮影、残りの2台は左右から可動式で撮影した。撮影には本学契約職員のご主人ならびに学生によるボランティアをお願いした。

全ての録画資料をもとに、赤松氏が編集され、NHKならびにCATVに視聴者投稿され放映された。また編集版はDVDに焼き付けられ、出演者ならび協力関係者に配布した。この場を借りて、赤松氏を始めとする

## バリ子ども舞踊団招聘プログラムについての報告

撮影協力者のみなさんに厚くお礼申し上げる次第である。

### 9. 学生たちの支援活動について

このプログラムの原案作成者であり推進の中核を担ったのは第22回ワークキャンプ参加学生である。滞在期間中の全日程を通じて、学生たちが子どもたちの生活を支援した。言葉の問題があるので、ワークキャンプ参加後にインドネシアはスラバヤ州にあるペトラ・クリスチャン大学に留学経験のある中山、山本、森田、山本の4学生を中心に第22回参加学生数人でチームを編成しローテーションを組んで支援した。内容は、宿舎である合宿棟に男女別に同宿、施設・設備の利用指導、生活上の諸問題へのフォロー、外出時や訪問・見学・探訪時に同行しフォローした。いささか過干渉・過保護の嫌いはあったが、アットホームな雰囲気を提供しえた。

彼らの奮闘に敬意を表する次第である。

### 10. その他

プログラムの遂行は実行委員会形式で行った。事務局はキリスト教センターの職員が担ったが、関係所管からも多くの助勤と支援をいただいた。その具体については枚挙のいとまがない。この場を借りて厚くお礼申し上げる次第である。

## バリの子どもたちの訪日感想

次に紹介するのは、バリの子どもたちによるアンケート形式による訪日感想である。全員が日本に来たことを喜び、見るもの触るもの全てに驚き不思議さと探究心がそそられ、もっと知りたい、また来たいと感じている。感想は共通するものが多かったので、要約して紹介する。

#### 桃山学院中学校訪問交流会について

教室，食堂，体育館，講堂など完備された施設，高いテクノロジーの設備がととのっているに驚いた。周りも整えられていて美しかった。食堂での食事がおいしかった。昼食に頂いたメニューが気に入った。

大勢の生徒達と交流したが恥ずかしくもあり嬉しくもあった。生徒達がフレンドリーなので嬉しかった。生徒たちと演舞や演技を交換できたし，彼らの演奏を聞けて良かった，生徒達の歌声がきれいだった。バリダンスを教えることが出来た。日本に来て，実際に日本の中学生と交流できたことを誇りに思う。もう一度訪ねたいと思ったし，また会えることを願っている。

#### 南池田中学校訪問交流会について

南池田中学校は大きく，高いテクノロジーの施設・設備が整い周辺もきれいに整備されていた。どこをみても，バリとは違うので不思議に感じた。

大勢の人と出会えて嬉しかったが恥ずかしくもあった。日本人と直接話し合えて嬉しかった。彼らはフレンドリーだったので楽しく交流できた。彼らにバリダンスを教えることが出来たし，彼らの演奏や歌も聴けた。日本の伝統的な楽器演奏も見ることができ嬉しかった。お土産巻までいただいた。そのアヒルの人形は可愛く嬉しかった。また彼らに会えるだろうか。

#### 博愛社訪問交流会について

小さく可愛い子どもたちが多くいた。フレンドリーと一緒に歌ったり，踊ったり，遊べて楽しく嬉しかった。良い子どもたちがたくさんいた。彼らと交流するとき嬉しさと恥ずかしさを感じた。私はそのとき風邪でダウンしてしまっていたが，フレンドリーな子どもたちと遊べて嬉しかった。彼らと日本語を勉強し，遊べて嬉しかった。日本の大正琴の演奏はとても素晴らしかった。私達もそれを演奏できて嬉しかった。

博愛社はホーム形式で施設は完備され周辺は広くきれいだった。また施設は整えられ美しくきれいだった。多くの子どもたちを大事にケアできるよう

## バリ子ども舞踊団招聘プログラムについての報告

にスタッフを選び抜いていた。良い、規律よく整ったところで嬉しく感じた。

昼食でご馳走になったご飯はとても美味しかった。

子どもたちがドッグセラピーというプログラムで、犬と嬉しそうに遊んでいる事に驚きを感じた。

ウィディア・アシと博愛社の違いを知る事が出来てとても嬉しく思っている。

### 弥生の風ホールでの公演について

ホールの大きさ美しさ、舞台の広さや設備など、あまりの素晴らしさに驚くばかりで、どうしたらこんなことが出来るのかと不思議に思うことばかりだった。そのような舞台でバリの伝統文化であるガムラン演奏とバリダンスを上演できて嬉しく、恥ずかしく、そして誇りに思えた。日本中のテレビにも紹介されると聞いて、アーティストになった感じがする。大勢の観客にも驚いたが、ホームスティの家族が見に来てくれたのがとても嬉しかった。上演できて幸せで大満足だった。

日本の珍しい踊りや人形劇を見れて嬉しかった。

### カンタベリーホールでの公演について

とても大きな特別な舞台で立派に大勢の人の前で立派に演奏できて誇りに思う。ここで上演できたことを忘れる事はないだろう。

カンタベリーホールでは、学生が演奏している部屋や部室を見ることもできた。彼らが音楽を演奏しているのも見る事ができた。彼らがフレンドリーに接してくれたので嬉しかった。

舞台ではたくさんのランプがついていたことと、観客が多かったことに驚きを感じた。初めてあれほど大きく素晴らしい舞台を見て、嬉しさと自慢げに思う気持ちが混同している。大勢の人の前でみんなと一緒に演奏できて嬉しく誇りに思う。私が踊っているとき、観客が多かったことと舞台が広がった事に驚きと不思議さを感じている。だが、立派に演奏できて嬉しかった。

豪華な舞台で立派に演奏できた事に驚きと嬉しさと誇りを感じている。その反面、多くの人が見ていたので恥ずかしかった。

#### 大学について

大学は壮大で素晴らしかった。完備された設備はすばらしく、知る事に飽きを感じなかった。設備は完備され広くて立派で、埃も無くなくきれいだった。どこへでも散歩に出かけられ楽しかった。高いテクノロジー、広く豪華で、完備された施設で快適だった。

学校周辺はとてもきれいで、学校滞在中に一緒に滞在してくれた学生もよくしてくれた。涼しく快適に過ごせたからとても良かった。

桃山学院大学に来了事があるという経験を得ることが出来て嬉しい、また驚いている。

お兄さんたちはおもしろくフレンドリーで良い人達だったから大変嬉しかった。日本語も教わり一緒に学校を回り、一緒に遊べて良かった。

#### 奈良を訪ねて

大仏殿に入って私は宮殿の王室に居る気がした。初めて世界一大きい青銅製の座っている仏像を見ることができて、嬉しく思った。同時にあまりの大きさに驚くと同時に不思議に思った。公園では鹿に触って遊べたし、猿沢の池ではたくさんの亀や大きな魚を見ることが出来た。お土産も買うことが出来て嬉しかった。奈良はとても良いところだったので、探訪できて、とても嬉しかった。

#### モクでの焼き肉について

お肉がとてもおいしかったので、大好きになった。焼き肉は飛び上がるようにおいしく、もっと味わって食べたかった。私達は2皿のお肉と、用意されていたアイスクリームも残さず食べ、どれも美味しかった。お店もリラックスできて良かった。ここで食べれることができて良かった。アイスクリー

## バリ子ども舞踊団招聘プログラムについての報告

ムはとてもおいしかった。あまりにもおいしかったから、アイスクリームもバーベキューも、もう一度食べたいと思った。食べる前には牛肉を自分達で焼いて、みんなで一緒に食べる事が出来たことも嬉しかった。帰り際に土産に日本の伝統的な内輪をもらえて、嬉しかった。

### 特記事項

特にない、食べ物は全ておいしかったし、日本の料理の食べ方を学べたし、充分に楽しめた。大阪（日本）に居る間に食べたものは全ておいしく好きだった。特別に好きなのは弁当と“モク”で食べたアイスクリームだった。

日本に居るあいだ、インドネシアの料理にいたる弁当を食べるのが好きだった。頂いたものは全て充分だった。

もし2～2年後にもこのように訪れることができるのなら、観光は最後にしてほしい。

食べ物は全ておいしく私にとって初めての経験になったのが、弁当だった。これ以上に求めることはないと思う。なぜなら私達がいただいた食べ物は何もかもおいしく充分だったからだ。

日本はとてもきれいで、日本について多くを学べたが、もっと多く知りたいと感じた。また他の日本特有の食べ物も味わいたいと思った。

私にとって与えられたメニューは全て充分だった。

日本に居た間、多くの人に出会えて、嬉しかった。食べ物はおいしく、また食べたくなくなった。

日本での景色は美しく、インドネシアとは違っている。日本はきれいで美しい。他の日本料理も食べてみたいし、もっと多くの日本の事について知りたくなった。

日本はきれいで素晴らしく思った、アイスクリームとバーベキューがもう一度食べたい。

日本はどこを見てもきれいに整っていて美しい。日本についてもっと多くを知りたくなった。他の日本の料理も味わいたいと思った。

もし、2 - 3年後にもこのようなプログラムがあるなら、観光の日は最後が良い。食べ物は全ておいしく、一番好きだったのはナシゴレンだった。

日本ではどこを見ても、きれいで整っていた。そして、日本の文化についてもっと知りたくなり、他の日本料理も食べてみたいと思った。

一番好きだったのはバーベキューだった。

日本に居る間、どこに行っても初めて見ることばかりで、とても嬉しかった。

### 桃山学院中学生たちの感想

さらに、桃山学院中学生による交流当日の感想をアトランダムに抽出し、そのいくつかを紹介する。中学生らしく率直で豊かな感受性を感じ取れる秀作が多かった。全員掲載したかったのであるが、紙面の都合上割愛せざるを得なかった。なお、読み下しやすくするために、一部の語句を漢字に変換し、必要に応じて句読点を加えた。

#### 1 A5 江口 みずき

踊りを見て、めっちゃ上手やったから、いっぱい練習してるなあと思いました。自分がもしやるとしたら、むずかしくて、できないかなあと思いました。バリ島の子たちは、あんなにいっぱい人がいたのに、緊張しなかったのかなあと思いました。もし緊張していたのにあんなに踊れるなら、めっちゃすごいと思ったし、自分も人前で緊張しないようになりたいと思いました。短い時間やったけど楽しかったです。

#### 1 A7 大西 琴子

私はバリの踊りを見たのはこれで2回目でした。1度目はハイヤットホテルでご飯を食べた時に見ました。その時は大人の人が踊っていたので、今回のように子どもたちが踊っている姿を見たのは初めてなんですけど....

でも子どもたちの方が大人の人よりも上手なんじゃないかな？と少し感じるところもありました。子どもたちは踊っている時と踊っていない時では、



## バリ子ども舞踊団招聘プログラムについての報告

全くちがいます。踊っていない時は、ふつうの子どもなのに、音楽が流れると、顔がガラッと変わって真剣な表情になるのです！！日本とちがう文化なのでなんだか不思議な感じですが、バリの文化もいいですね！またこんな交流会があればいいなと思います。

### 1 A14 酒巻 有吾

バリの人たちがわざわざぼくたちに踊りを踊ってくれたのすごいと思った。しかも、ものすごく長く踊っていたので疲れないのかなあと考えた。あと、覚えるのにどれくらい時間がかかったのかなあと考えた。すごく楽しかったです。

### 1 A15 笹井 れいら

バリ島の人の踊りは初めて見てびっくりしたし、「手がきれいだな」と思いました。私はクラシックバレエをやっているんだけど、バレエが一番長い曲でも2分ぐらいだけど、バリのおどりは、7分ぐらい合ったから、「長いなあ！！！」と思いました。そしてバリの歌や、バリの木琴に似ているような楽器の音楽なども聞いていて、すごく良い気持ちになりました。

### 1 A20 高橋 颯太

ああいう風に外国の人とかと接することが今までなかったので、おもしろかったです。ダンスの首が平行に動くのとかダンス中にやってみましたが、全然できません。男の子の楽器もすごいと思いました。ただ1 Aは誰も前に出て踊らなかったの、次あんな機会があったら出たいと思います。

### 1 A26 中尾 明日香

まず思ったのが、すごく踊りがうまいなと思いました。なぜなら手先の指1本1本がすごくきれいだったの、すごくビックリしました。あと、バリ島の食事で動物（ブタ）の丸焼きとかは食べれないなと思いました。私は上

海の子とも交流したことがあるけど、バリ島の子の方が明るかったです。

1 A29 西尾 哲平

バリ島の子どもたちはとても真剣に踊ってくれたり、歌ってくれたりしていた。とても楽しそうに踊っていたので、自分もなにか楽しかった。バリ島の子どもたちはみんな施設の子もだと知った時、なぜこんなに仲良く楽しそうに踊れるんだろうと思って、考えてみたら、バリ島の子どもたちは今、あることを楽しんでいるのかなと思った。

1 A35 山田 小百合

バリ島の人のも日本と同じで、関西や関東のように、関西弁や標準語と一緒にバリ島の人たちもバリ語という言葉があるんだなあと思いました。それに木簡のような音楽はきれいな音で、すごく良かったと思いました。踊りでも、何かを表現するように、動きの速いところ、遅いところできていたし、衣装も華やかで、なりきって、元気よく踊っていたので、こっちも楽しい気持ちになり良かったと思うし、桃山がバリ島と交流を持っていることは、知らなかったので、びっくりしました。とても良い“企画”だったと思います。

1 A36 山田 美由紀

バリ島には行ったことはないけれど、名前くらいは知っていました。でも、どういうところかは、あまり知りませんでした。バリ島にも、独自の文化があるんだなあと思いました。特に、おどりを見た時に、一番感じました。多分この先、バリ島の人たちに会うことはすくなくだろうと思うので、いい経験だと思いました。

1 B1 有澤 智樹

バリ島の人たちの文化や習慣は、日本と全然ちがうことにおどろきました。特に、パソコンで見た、町の様子などすごく自然なかんじがしたので、バリ

## バリ子ども舞踊団招聘プログラムについての報告

島は自然があってきれいなんだろうなと思いました。僕は今までバリ島に一回も行ったことが無いので、また行ける機会があったら一回だけでも行きたいです。

### 1 B11 岡本 清香

バリ島の人達の踊り。少し長く感じたけどオモしろかった。後、楽器で何度も「チューリップ」を演奏してて、オモしろかった。あんな楽器初めて見た。バリ島の人達がみんなで歌ってくれた歌が明るい感じだったから、気に入った。

### 1 B12 沖島 光希

前に出て一緒におどらせていただきました。とても楽しかったです。カッコいい人がたくさんいておどろきです。僕たちが歌った歌、拍手してもらえました。また、こういう交流会があったらいいなと思いました。

### 1 B16 小坂 哲也

世界の人々とあまり接した事がなかったので、とても楽しかったです。一緒におどったりできたので、バリ島の文化とかも知ることができてよかったです。また、このような機会があったらうれしいです。

### 1 B17 穴倉 茉莉

バリの音楽・ダンスがとても気に入りました。私は、ダンスを少し教えてもらえるときに、ステージに立ったのですが、手の動きがとても難しいことが分かりました。そのときには「バリ島子ども舞踊団」の子が私の手を取って教えてくれました。また、帰りにはバリの子たちに声をかけて簡単な英語で会話したので、友達になることができました。ぜひ、また会いたいです。

1 B18 高田 明希

バリ島の子どもたちは、わたしたちに普通に接してくれて、最後には数人友達ができました。みんな明るくて、ダンスもすごく華やかできれいでした。最後に、自分の名前を教えて呼んでもらったとき、すごくうれしかったです。また会って、こんどは普通の友だちのように接したいと思っています。

1 B20 辰巳 雄一朗

バリ島の子どもたちとは会話が通じにくかったけど、握手もできて嬉しかった。後、見たことのない踊りをおどったり、知らない楽器とかでできたけど、見たり聞いたりしていたら、自分もあの楽器を弾いてみたいなあと思いました。バリ島の子どもたちとの交流会はめったにないので、いい経験になりました。

1 B27 橋本 千裕

バリ島の子どもたちの踊りはどれもすごかったです。特に首の動きがすごくてびっくりしました。話をしてみると私たちより背が低いのに15才の子や14才の子がいてびっくりしました。英語で会話するのはむずかしかったです。言葉はわからないけれど雰囲気が明るくてとても楽しかったです。バリ島の映像や写真を見て行きたいとおもいました。とても楽しかったです。

1 B28 八田 朱里

始まる前は「どんなんやる？」って思ってたけど、始まってみると、めっちゃ楽しかった。一番思い出に残っているのは、踊りを教えてもらったことで、楽しかったです。帰るころには、3時間？ぐらいしか一緒にいれなかったのにさみしかったです。こんどは私がバリ島に行って、このあいだ来てくれた人たちと一緒に遊びたいと思う。

## バリ子ども舞踊団招聘プログラムについての報告

### 1 B33 森田 朱音

初めは少し緊張して言葉も通じないだろうし、大変そうだなと思ってました。でも、実際交流会が始まると、すごく楽しくて、おもしろかったです。見たことのない楽器を演奏してくれたり、バリ島のダンスを見せてもらったりしたのが印象に残ってます。最後に廊下でバリ島の子どもと握手をしたり、一緒に写真をとったりしました。年令を聞くと、15才や14才など私より年上の子が多かったのでおどろきました。また他の国との交流会をしたいなあと思いました。

### 1 B35 山口 優菜

バリ島ではどんな生活を送っているのかなど、色々なことを知ることができました。また色々なことを学びました。そしてこの日来てくださった人たちはお母さんやお父さんといっしょに生活していないと聞き、びっくりしたのと同時に、そんなんイヤやなと思いました。でも、そんな環境の中でもがんばって生きているのだなと思うと、私だったら、そんなに耐えきれなくなると思いました。また、このような交流をしたいなあと思ったのと、私もバリ島へ行きたいなあと思いました。そして、少しでもこのような人たちを助けてあげたいです。

### 1 B36 山田 美咲

バリ島の子どもたちは、みんな明るく元気な子ばかりで、一緒にいると楽しかった。ダンスはとても踊っている時間が長いのに、ずっと笑顔で踊っていたのすごいいと思った。最後に、4～5人のバリ島の子どもたちと英語で会話したり、写真をとったりして友達になれたのが嬉しかった。

### 1 C1 荒木 優

まったく日本とはちがう踊りや音楽を見してもらってよかった。音楽はぜんぜん知らない楽器で、不思議な音がでるなと思った。 ばかりなのに、す

ごいメロディだった。踊りなどは動きがむずかしくて、ぜったい半年とかもっと練習してと思った。日本とは全然ちがう文化を見れてうれしかった。

1 C2 植田 真実

バリ島の人達の文化を知ることが出来て良かったです。でも、私達がおどりの文化を教えてもらうだけではなく、バリ島とは違う私達の文化を知ってほしいです。座ったままでなくバリ島の子達といっしょに遊びたいです。せっかく飛行機に乗って遠い日本まで来てくれたので、サプライズとかでおみやげみたいなプレゼントもあげたいです。桃山の人といっしょにおどっていた時のみんなのテンションは最高だったので、またおどってほしいです。もし、来年とかも来てくれたら、そんな感じで交流会をして楽しんでほしいです。

1 C4 岡崎 貴広

僕は、バリ島の人たちに、おどりを教えてもらいました。あまりにも、僕が真剣にやったせいかみんなに笑われました。けど、田中先生だけは「岡崎君、上手やったでー」といってくれました。バリ島の文化などが少し分かったような気がしました。

1 C7 片山 亜里夏

バリ島の子ども舞踊団のダンスを見て、曲が長いのに休まずダンスをしていたので、よくつかれないなあ、すごいと思いました。楽器も音がきれいで手際よくひいていたので上手だなと思いました。バリ島の子どもたちが、本当に親がいらないのかと思うほど元気そうだったのでびっくりしました。私は、もっとさびしそうなオーラをだしているのだらうと思っていたので、この子たちは強いんだなあと感じました。とても楽しい交流会でした。

## バリ子ども舞踊団招聘プログラムについての報告

### 1 C8 川本 美早

体全体がうねうねしていて、同じ人間だとは思えないほど柔軟性がありました。みんな髪をのびしてポニーテールにしていたのが不思議でした。男女共に協力してダンスを完成させていて、一生懸命に踊っていたところや目線の位置が高く遠かったところも「すごいなあ～」と思いました。日本の音楽とは一味ちがった音楽とダンスを楽しめてよかったです。あと、廊下で衣装に着替えていたので、寒くないのが心配になりました。

### 1 C11 蔵本 千紘

普段あまり耳にしない不思議な音楽で、くねくねしたダンスを踊っていて、とても興味をひかれました。みんなが見ている前でもあんなにキッチリハキハキと上手く踊れるなんてすごいなあと思いました。日本にはない、バリの伝統的なダンスや楽器とその音色、全てに感動しました。みんなが歌っていた歌も、歌詞の意味はよく分からないけど、みんなの声がそろっていてとても素晴らしかったです。外国の人と触れ合う機会がなかったので不安もあったけど、とても楽しく、いい思い出になりました。

### 1 C12 小山 留奈

特徴のある音楽に合わせ、2種類の変った踊りを見ましたが、動きが複雑で見ているのがおもしろかったです。また、バリ島から持ってきていた、初めて見る楽器を見て良かったです。バリ島の踊りの首の動きには驚いた、本番の時の衣装も見たいです。最後に、桃中を出す前に手をふってくれました。言葉は通じなくても、動作で気持ちを伝えるというのは、改めていいことだと感じました。

### 1 C14 島田 寛大

バリ島の人々の交流会でうれしかったことは、わざわざ遠い日本に来てくれて、時差もあり、大変だったのに、桃山の生徒のために踊ってくれたこと

に感謝しています。演奏の楽器も見たことのない楽器で興味ができました。これをきっかけにこの桃山学院がいろいろな国の学校と親しい関係になってほしいです。

1 C17 高田 悠花

バリ島の踊りはとても難しそうで、服装も初めて見ました。バリ島の人たちはあんなに元気で、楽しそうなところに住んでて、少し行ってみたいなあと思いました。もし、またの機会があれば、いっしょに日本の文化をおひろめして、交流を深めたいです。

1 C18 竹田 京香

初めて生でインドネシア（？）人を見たので、ちょっとドキドキしました。女の子とか、みんな同じような髪がたをしていたのが、すごく印象に残っています。インドネシア（？）人を初めて見て、「やっぱり日本とインドネシアのダンスは違うなあー」と思いました。

1 C24 仲尾 実紗

ちがう国の人たちと交流するということは、なかなかない。貴重な体験なので、とてもよかったです。バリ島の伝統的なおどりや楽器など、初めて見るものばかりで、とてもおもしろく、興味をもてました。また、このような機会があればいいと思います。

1 C25 中村 広大

バリ島と日本の文化は全くちがうのでおもしろいなあ～と思いました。バリ島の子どもたちの踊りはすごかったです。実際にぼくも舞台にあがっておどってみたけれども、すごくむずかしかったです。でも、子どもたちといっしょにおどって楽しかったので、よい思い出になりました。



## バリ子ども舞踊団招聘プログラムについての報告

### 1 C26 西 琴音

バリ島の子どもたちと一緒に交流できて楽しかった。日本とバリ島では、習慣がまったく違っているということがわかった。あの踊りはすごく長くて、ねむたくなってしまったけれど、あんなに長い踊りをおぼえて、あんなにきれいにおどり通すためには、そうとう努力していると思った。日本語がわからないから話もできない状態だったけれど、言葉のかべを超えた交流ができたと思い、うれしく思います。

### 1 C29 樋口 賀美

バリ島の子どもはみんな素直で明るい子だなと思った。踊りがすごくしなやかで上手だった。自然が美しくて良い国だなと思った。民族衣装が可愛かった。またこのような機会があればいいなと思った。すごく楽しくて、すぐに時間がった。

### 1 C37 横田 舞花

私はバリ島の子どもたちとの交流で感じたことは、その国独特の文化があるんだなあと思いました。バリ島の子どもたちが踊っているダンスは少し興味がありました。私自身、海外の子ども達と交流する機会がないので、よい経験になったと思います。また、バリ島のダンスのお礼として日本の歌や桃山中学の歌など聞いてもらえてよかったと思います。私の中でめずらしい最高の経験になったと思います。

### 1 C38 吉田 景亮

バリ島の子どもたちを見るのは初めてでした。なので、初めて見たとき、体の色が日本人と違いこげ茶色だったので、始めはなれてなくて、不思議におもいました。が、ずっと見ているうちに体の色などは気にならなくなりました。そしてバリ島のダンスを見て、世界にはいろいろな人がいるんだなと感じました。このバリ島子ども舞踊団との交流会はバリ島の子ども達のこ

とをよく知れる良い機会になったと思います。

### 本学学生の感想

最後に、カンタベリ・ホールでの公演を多くの市民、教職員・学生が鑑賞してくださった。原山教授はじめとして多くの教員が授業を振替にしてくださり、多くの受講生が授業の一環として鑑賞した。以下、原山教授の東洋史受講生の課題レポートから数編をアトランダムに紹介する。

#### A．ガムラン演奏とバリダンスについて

09B1195 山口 大輝

##### 1．ガムラン前奏・終奏

ガムランの楽器を見て、今までに見た事の無い楽器でした。演奏を聞いて、バリの子どもたちは、すごいスピードで楽器を叩き、ときどき強く叩いてすごく響き、めちゃきれいでした。

##### 2．歓迎の踊り

すごく細かい手首の動きや指の動きがきれいでした。体のバランスがよかった。腰の動きが一番印象に残りました。

##### 3．兵士の踊り

この踊りも歓迎の踊りと少し似ていて、手首の動きや指の動きがきれいでした。ただ兵士の踊りはガムランの演奏によって激しく変わります。

##### 4．水鳥の踊り

鳥のように翼をひろげたりとすごくきれいでした。鳥のような動きをしたりと楽しかったです。

##### 5．天使の踊り

天使のように白いつばさをひらひらとゆれてきれいでした。3人の天使が本当にいるようでした。

##### 6．金鹿の踊り

鹿をアレンジした金色の衣装をつけ、飛び跳ねる鹿をイメージして表

## バリ子ども舞踊団招聘プログラムについての報告

現していた。金色の衣装がライトで光ってきれいに見えた。

09J1152 吉丸 佳悟

ガムランの印象は、一つ一つに楽器は単純な音を発するだけだが、そのいくつかの楽器が合わさると不思議な音色を発する。楽器を演奏している子どもたちの手の早さで、どれぐらい練習してきたかがわかった。演奏のテンポや音の大きさなどで、演奏している子どもたちの感情が表れていたと思える。一つ一つが合わさる事で、こんなにもいろいろな事を感じさせるガムランというのはすごいという印象を持った。

ダンスの印象は、始まる前に、司会者から目や手・指などの動きで感情を表していると解説された。意識して注目していると、あまり激しくは動かないが、ガムランの演奏に合わせて指や足先を動かしており、何かを表現しているという事が分かった。しかし、どのような感情を表しているのかまでは分からなかった。踊っている子どもたちの表情は穏やかで楽しそうであり、自分たちは一日一日を頑張っているという印象を持てた。

09B1167 藤原 稔弘

ガムランは音の強弱をはっきりとつけたり、テンポを速くしたり遅くしたりして抑揚をつけ、それがダンスと組み合わせあって成り立っているのだと思いました。楽器のほとんどは金色に輝いていた。同じ種類の楽器であっても、同じリズムを演奏するのではなく、一人一人が異なるリズムを担当する事で、途切れの無い演奏が出来ているのだと思った。また、一人一人が同じリズムを演奏する事で曲を力強く表現しているのだとも思った。

踊り子の衣装もまた金色に輝いているものが多く、鳥や鹿などをモチーフにしたものがみられた。少年・少女達が1時間近くも集中して演奏したり、止まる事無く踊り続けている事に大変感心した。彼らみんながとても落ち着いていて、それぞれの役割をこなしていることにも驚いた。とても一生懸命に練習したのだと思った。

08E1402 高見 亮平

すごく神秘的な印象を受けた。今のバリの現状を知っている若い中学生の彼や彼女たちは、どのような気持ちで日本に来て、音楽を奏で踊りを踊っているのだろうか、と思った。僕には、彼らは神に助けを求めているように奏で踊っているように感じられた。素晴らしい踊りだったのだが、心に何かひっかりました。今のバリがもっと政治的にも衛生的にも良くなってから、もう一度、拝見したいと思った。

08S1078 尾関 秀一

演奏しているのは10名ほどで、太鼓と金属の打楽器であった。上手く強弱をつけて演奏していたと思うし、独特の音楽だったと思う。踊り子の衣装は基本的には金色で水鳥の踊りと天使の踊りでは羽のようなものをつけていて、金鹿の踊りではかぶり物をして物語があるように踊っていた。全体的に細かい動きが特徴で、特に手の動きはくねくね動かしていた。どの曲も演奏時間が長かったが、踊りと演奏が合っていて、覚えるのも大変そうだし、とても練習した事が想像できた。日本には無いとても民族的な踊りと演奏だった。

08L1046 岡村 知香

私は今年の3月に大学の授業でインドネシアに行き、農村ホームステイと養護施設訪問をしました。その際に、どの施設に行っても、ガムランとダンスで歓迎してもらいました。中学校訪問ではその練習風景を見せていただきました。そのため、今回、子どもたちのガムランとダンスを見せてもらい、とても懐かしい気持ちになり、向こうで知り合った人々・子どもたちに会いたくなりました。また、施設や農村でガムランとダンスの練習に参加させていただいたのですが、どちらも思うように出来ず、とても難しかったです。

今回、ダンスを見ていて感じた事は、一人一人の踊り方に個性があり、自由に踊っているということです。すごくなめらかな動きで、とてもきれいでした。シンプルそうに見えて複雑、シンプルに見えるからこそごまかしがき

## バリ子ども舞踊団招聘プログラムについての報告

かないダンスだと思います。ガムランについても、ダンスについても、国の伝統文化が現代の子どもにまで伝わり守られているということは、本当に素晴らしいと思うと同時に、盆踊りすら踊れない日本の自分たちが少し悲しくなりました。この先もいつまでも美しい音色とダンスが伝わっていくことを願います。

07L1045 片山 愛美

ガムランの独特な音の響きに圧倒されました。指揮者がいるわけでもないのに、曲中にテンポが速くなったり遅くなったりする事が多々あったので、あそこまで合わせるのには相当練習したのだらうなーと感心しました。

ダンスの方は指や首の使い方が特徴的で、何か意味があるのかと気になりました。

どちらも素晴らしかったです。

07S1041 岡野 万理奈

まず、中学生の子どもたちが楽器をすらすらと演奏しているところ、器用に踊っているところを見て、びっくりさせられた。楽器を演奏している男の子たちは、楽譜を見ないにも関わらず、何曲も演奏していた。しかも、たんと弾いているように一見見えたが、楽器を弾いている子どもたちの息がぴったり合っていたところが素晴らしいと感じた。

また踊っている女の子は、足でリズムを取ったり、手首や手先の動きがとても細かく、中学生の子どもだとは思えないほどであった。しかも、衣装は華やかで踊りが引き立つような工夫がされているところも印象深かった。

07S2079 広瀬 由利子

多彩な衣装がとても印象的で、演目に合わせて頭飾りや小物を身につけたり、歓迎の舞では花をまくなどの演出がとてもきれいだなと思いました。踊りも演目毎に雰囲気が全く違っていてすごいと思いました。本当に指の先ま

で神経を集中させているなとよくわかりました。細かく小刻みな動きはとても独特でした。音楽は全く聞いた事がなく不思議な印象でしたが、その中で日本のお囃子に似ているように感じる部分もありました。緩急の幅がとても広く、力強さと表現力に圧倒されました。

06S2010 石橋 春加

奏者の男の子たちの息がぴったりで、一瞬の隙もなく着々と演奏がなされて行くのを見て、同じ時間を過ごしている仲間同士の絆、長い練習の成果がうかがえました。ダンスを踊っていた女の子たちも、子どもとは思えない魅力があり、独特の世界観がありました。生活の中で何か熱中できるものや目標があるのと無いのとでは、その子自身の自信に大きく影響してくると思います。この子たちは様々な不幸な境遇でここに集まったのだと思いますが、これからはこの特技が誇りにつながり、より良い人生への近道になると思います。

私自身も、彼らの演技を見て、非常に良い刺激を受けました。とても楽しかったです。

06B1133 佐藤 直哉

とても幻想的で素晴らしい音楽でした。しかも舞踊団全員ではなく何人が選抜してられているということで、非常に驚きました。ガムラン演奏は見た事の無い楽器ばかりで、どうやって弾いているのかがとても気になります。

バリニーズダンスに関しては、まるで大人の女の人がダンスしているように見えました。本当にあの素晴らしい演奏を見られ、そして聞いた事にとっても感謝しています。そして日本だけでなく、世界中様々な人々に見てもらいたいものです。国際交流は大事なものです。相手の国の人ができるだけでなく、文化面や言語面でも非常に良く分かります。これからも様々な国同士が積極的な国際交流をして行ってもらいたいものです。

## バリ子ども舞踊団招聘プログラムについての報告

06L2147 中磯 千佳子

楽器によって、この演奏では音が小さくなったり大きくなったりしていた事が印象的でした。鉄琴に似たものを演奏している子の速い手の動きに驚きました。3曲目の兵士の踊りでは徳島出身の私には阿波踊りに似た踊りや、鳴りものが時々垣間見えたような気がして浮き浮きしました。つま先を立てて踊る仕草や一番大きな音を出していた楽器の音色が阿波踊りのリズムや音色に似ていると感じました。踊っている姿を見て、やっぱり手の細かな動きが難しいのかなと思いました。生でガムランとダンスをみる機会はなかなかないので、この機会に、日本の田舎の徳島と海外の音楽とダンスに類似するところがある事に気がつけて良かったです。

### B. 講演を聞いて

08L1046 岡村 知香

最も印象的だったのはパワーポイントに映し出された「餓死寸前の子どもとその死を待つ禿鷲」の写真です。講師のスクラマ氏は「写真を撮った写真家は子どもを助けられなくて悲しんだ」と話してくださいました。苦しむ子どもを前に何もできないというのは、どれほどつらいことなのか、想像するだけでも悲しい気持ちになります。しかし「人を救う」ということには、大きな勇気と力が、そして何よりも愛が必要であると、講演を聞いて思いました。そう思ったのは、貧しいムラの人々に米の作り方を教え、安全な水を引いたが拒否されたという話があったからです。差し伸べた手が必ずしも相手に届くとは限らない、そう感じました。けれど、私が今年インドネシアに行き、スクラマ氏の支援している養護施設を訪問したとき、そこに居る子どもたちはとてもすてきな笑顔で明るく接してくれました。そのようにスクラマ氏たちの助けによって、毎日を充実させることが出来ている子たちがいることも事実です。慈善活動を行うには、行う側の勇気と愛、そして相手がそれを素直に受け入れることが必要です。両方が互いに力を合わせて行くことが大切なのではないかと感じました。

08S1003 赤松 翔太

2008年度インドネシアにおける社会福祉問題，社会福祉問題保有者（PMKS）の実態という内容の中で，私にとって最も印象的だったのは，22種類の社会福祉問題に取り組んでいるという所である。そもそも，インドネシアには22種類もの社会福祉問題があるということに，私は驚きました。

内容の中には，ストリート・チルドレンの発生や孤立したコミュニティなど他にも多くの問題が挙げられており，それらの中での活動も含めながら説明してもらいました。

ストリート・チルドレンの話では，5年前から10年前には見られなかったストリート・チルドレンが今では赤信号になると車に寄り集まってくるという現状を説明してもらいました。また，孤立したコミュニティの話では，現在孤立した村は14もあるということと，そこでの活動を聞きました。活動の中で，米の栽培を教えたが断られ，今でもトウモロコシを食べていること。飲料水は雨水でいいという村人の声で，今もお水はきれいではない。このような村人たちと意見が対立する中で，一生懸命活動しているということも教えてもらった。

これらの他にも，多くのインドネシアの問題や現状，そしてそこでの活動を聞き，問題が早期解決してほしいと思った。日本が問題解決のために協力的になればいいと思った。

08E1006 芦田 靖奈

インドネシアは日本と違って，まだまだ治安が安定していないことを知っていましたが，実際に講演を聴いて詳しい事情を知りショックを受けました。

私にとって印象的だったのは児童問題についてです。日本にはインドネシアのようなストリート・チルドレンと呼ばれる子どもを見たことはありません。講演の中で，インドネシアに来た人々が必ず見る光景だといっていた写真を見ていて，本当に辛くなりました。まだ10才ほどにも満たない子どもたちが物乞いをしている現状がインドネシアには未だ多く起こっているという



## バリ子ども舞踊団招聘プログラムについての報告

のは、とても大きな問題です。

今回、ガムランとダンスを見せてくれた子どもたちも貧しいなどの理由から施設で生活していますが、あの子どもたちは幸運だったのではないかと思います。貧困でストリート・チルドレンを続ける子どもは多くいるという現実をもっと多くの人々が知るべきだと思いました。

07S2079 広瀬 由利子

最も印象的だったのは「孤立したコミュニティ」についての話だった。450もの少数民族が暮らすインドネシアにおいて人里離れた場所に住んでいる人々は周りとの交流がなく孤立しているということでした。それ自体は民族としてまとまっていれば、ある程度は許容できるかと思ったのですが、水道をつけても拒否して雨水を利用したり、米が主食のインドネシアなので稲の栽培法を教えたが利用してもらえなかったりなど、孤立というよりは日本の「鎖国」のような状態であることに驚き不安を感じました。これからインドネシア社会を変革して行く中で、このようなかたくなに変化や他者を拒むというのは大きな障害となっていくのではないかなあと感じました。

07S1041 岡野 万理奈

最も印象的だったことは、インドネシアでは社会福祉問題の中でも、貧困、障害者や災害で被害に合った人、暴力行為による被害者が急増しているということである。中でも驚いたのが暴力に関する事件が多いことで、町の中でも普通に暴力をふるう人がいると知って、日本ではあまり考えることが出来ない光景だと思った。また児童問題に関しては、バリ州までは1万3000人もの子どもたちが教育を受けることが出来ない事実があって、それに対し政府は2000人くらいしか助けることが出来ないと述べていた。あまりにも教育を受けられない子どもの多さに非常に驚いてしまった。政府側も2000人という子どもを援助していて、2000人という数は決して少なくないが、教育を受けることが出来ない子どもが多すぎて追いついて行かない現状に残念に思った。

しかし、インドネシアの現状というものが全く知らなかったので、とても勉強になった。

07J1231 山田 昌史

インドネシア共和国は、金融危機の後、経済問題と、特に社会福祉問題がまだ全く回復していないということに驚きました。また、社会福祉問題保有者や社会問題の対象の多さにも驚きました。5才未満児の栄養不良の多さ、ストリート・チルドレンや親からの暴力行為を受けてしまった子どもたちの多さに悲しい気持ちになりました。スクラムさんのように、養護施設を立ち上げるなどの活動がなければ、さらに悲惨な状況だったのではないかと思います。われわれ日本人も、できることがあればと思います。

06S1162 戸田 かおり

最も印象的だったのは、国からの援助は経済的に厳しいということです。国から支給されるのは主食の米やサラダオイルなどの食料ですが、定期的に支給されるのではなく不定期で支給されるということを知り、本当に国そのものが経済的に厳しいという状況が伝わってきました。だからこそ講演してくださったスクラム氏が運営するような養護団体や個人、バリ・プロテスタント・キリスト教会が中心となって援助活動を行っていることがとても有益なものであると思いました。バリ子ども舞踊団の子どもたちに生活する場所、勉強する機会を与えることは国の将来をつくりだすことにつながっていくと考えるからです。また国民の中でもヒンドゥ教を信仰している人々が多く、女性の社会進出の機会が少ないことが問題となっていますが、未亡人を積極的に雇って仕事をする機会を設ける活動もなされていることを知り、国に頼るだけでなく国民一人一人が自立的に行動している姿が浮かびました。

06E1373 松本 達也

講演を聞いて、最も印象深かったのは『バリ島』の裏側（東バリ）の事情

## バリ子ども舞踊団招聘プログラムについての報告

です。インドネシアに関してあまり知識はありませんが、観光地として有名なバリ島の東部がそれほど貧困だとは思いませんでした。ウィディア・アシの活動で救われている子どもはとても幸せですが、それも限られている人へのみというのは大変悲しくなってきます。こういった現状というのは、日本人にとって大変感心が薄く、というよりも、知られていないというのが現実です。もっとこういった機会を増やし、多くの人々に知ってもらうべきです。

06S2010 石橋 春加

最も印象的だったのは、これだけ多くの適切な保護下でない児童が掘り下げられているにもかかわらず、その対策がまだまだ不十分であることです。「シノド」キリスト教会の管理下にあり、貧窮からの脱却と救済を使命としているのに、現実はまだスポンサーが見つかっていない児童がいたり、継続的な支援先が少なかったりと完全な解決策としては確立されていません。非営利団体であるなら、国はもっと積極的に支援するべきではないかと感じました。インドネシアには、住居に不適切な家に住む家庭、社会で精神的問題を抱えた家庭、山奥などの孤立したコミュニティの中にある家庭なども問題に挙げられています。そのような重いストレスを抱えた児童はやがて薬物に走ったりと新たな問題を生んでいきます。一人でも多くの子がそうならないよう、寄付だけでなく、もっと積極的に資金を調達できるシステムを考える必要があるのではないかと感じました。

05S1073 金川 智彦

講演を聴いて、幼い子どもたちが放置されたり、暴力行為を受けたり、家庭が貧困であったり、紛争地域出身であったりとインドネシアの児童問題はとても深刻きわまりない状態にあるのが分かった。その中でも最も印象的だったのは、ウィディア・アシという養護施設の取り組みです。ウィディア・アシとは「智と愛の家」という意味で、現在、7つの養護施設で600人以上の子どもを養護していて、大半の子どもが貧困家庭出身、生活と教育の機会に

恵まれなかった子どもを養護している施設で、児童のための支援基金の提供、教授学習過程に必要な設備の提供、創造性、規律性、責任感、自信にあふれた児童の育成といった目的で活動している。この取り組みが、今後インドネシアが抱えている深刻な児童福祉問題を少しでも速く少しでも解決につながっていくように、拡大していく必要があると切実に感じた。

## さいごに

今回、学生からの発案と学長・5学部長の英断により、バリから子ども舞踊団を招聘するという快挙が実現できた。20数年来、ワークキャンプに参加したOBやOGが暖めてきた念願のプログラムであった。

本学は「世界の市民」育成を建学の精神としている。その象徴的なプログラムが、国際ワークキャンプ・インドネシアであり、今年で23回の実施をみた。開始前年のインドにおける井戸堀キャンプとバリにおける爆弾テロによる直前の実施中止を加えると、通算24年の長きに亘るプログラムである。しかも爆弾テロによって中止された時も、学内外・OBGからのカンパにより女子棟の改築を果たしている。1990年には春と夏の2回実施があり、24年の歴史に空白はない。

それにもかかわらず、2006年秋に20周年記念式典を開催するとき、「よくぞ20年も実施したものだ。もうこれで十分だから終了にしては、いやいや2年に1回でも良いではないか」といった声が学内で囁かれたと聞いている。極めて残念な発想である。なぜそういう発想になったのか、その要因をいくつか探してみる。

その第1は、教育プログラムとしての位置づけの曖昧さにある。このプログラムが建学の精神を具現化するものとして認知されていないのでないか。もともと、このプログラムは大学開学25周年記念事業として開始され、ボランティア活動として位置づけられていた。しかし、その実施過程の中で様々な修正や工夫が重ねられ教育プログラムとして整備され、ついには学外海外研修（国際ワークキャンプ）4単位として単位認定科目に位置づけられるよ

## バリ子ども舞踊団招聘プログラムについての報告

うに修正された。その修正のもつ意味が認知され周知徹底されていないのではないか。

第2に、発展途上国への支援プログラム、ボランティア活動というイメージが前面に出すぎていることにある。1975年にバリ・プロテスタン・キリスト教会が西南ドイツのNGOからの支援をもとに児童養護施設を運営して30数年になる。1987年に、本学の故名誉教授藤間繁義氏の仲介により、バリ教会と協働して第5番目の施設建設が開始された。本学学生及び兄弟・姉妹校である立教大学と神戸松蔭女学院大学の学生、インドネシアの学生たちで施設建設のための基礎工事部分にあたる穴堀が主たる作業内容であった。日程はジャカルタの市内見学と交流を含めて3週間であった。特に、バリでは16日間をベースキャンプ地となるプリンピンサリ村にホームステイして過ごした。その受け入れコーディネイトと宿泊費・水の使用料<sup>1</sup>を含め、教育協力金として毎年80万円を支払ってきた。日本からの参加学生は25人である。学生一人当たり一日2,000円となる。バリ教会ではこれをホスト・ファミリーや職員に配分するのではなく、施設の建設費として全額使用した。従って、ワークキャンプは本学とバリ教会（具体的には職員とホスト・ファミリー）による協働によって成立してきたのである。それゆえ、本学から建設資金80万円を寄贈したということにはならない。学生を受け入れ滞在させた経費がバリ教会や村人の善意の賜物として寄贈されてきたのである。

考えてほしい、先進国・経済大国である日本からきた学生を無償で長期にわたってホームステイさせる義理がどこにあるだろうか。一日2,000円は滞在宿泊費用にすぎないのである。この点に大方の誤解があると思われるので、あえて強調しておく。途上国に20年に亘って、80万円を寄贈してきたという発想は、あまりにも傲慢であり、世界市民の感覚とはほど遠い。延べ500人近い学生が、家族としてどれほど暖かく遇され愛されたことか。経済大国、消

---

<sup>1</sup> この地域は乾季に水不足で悩む。キャンプは乾季の終わり頃だから、かなり深刻である。日本にいる感覚で学生は気ままに水を使うため、家族へのしわ寄せは大きい。

費文化にどっぷり浸かって育った現代若者の生活様式と、伝統的で慎ましい農村の生活様式とは相容れない。学生たちが巻き起こす様々な混乱に枚挙のいとまがない。そのような彼らを懲りもせずに毎年暖かく受け入れているのである。参加学生の中には、その後に気ままに個々に村を訪ねホームステイする者が後を絶たない。この無償の愛と恵みに包まれたからこそ、このワークキャンプから多くの人材が育っていったといえよう。ホスト・ファミリーや教会関係者、施設の子どもたちから受ける恵みの大きさと重さには計り知れないものがある。それゆえ、本学がボランティア活動として発展途上国に貢献したという評価は思い上がりである。それとは逆に、どれほど大きな恵みと教育貢献を頂いたことか。キリスト教が説く「愛と奉仕の精神」を実践しているのは、バリの人々である。そのことを謙虚に思い知るべきである。

最後に一つの提案をしたい。今回の招聘プログラムは開学50周年記念事業として実施できた。そしてその教育的効果は、バリの子ども、日本の子ども、学生にとって大きなものとなった。今後もこのプログラムを継続して実施したいと願うものである。しかし、その総経費は580万円であり、実現は困難であろう。そこで次の試案がある。

#### ワークキャンプ参加学生による招聘プログラム

時期・期間：6月の学年末休暇中。3週間。

内容：協力校での体験入学。

宿泊：ホームステイ（学生の家庭で協力して受け入れる）

費用：渡航費、パスポート・ビザ関係費、出国税等で一人当たり19万円。

財源：学生が月1回2時間のアルバイト（1,600円）を12ヶ月実施。

学生10人で1チームを編成し、1チーム単位で一人の子どもを招聘する。

$1,600円 \times 12ヶ月 \times 10人 = 192,000円$

引率職員の費用について、本学教職員のカンパによる。

参加学生で思い出旅行や卒業旅行のために、キャンプ地を再訪し、ホーム

## バリ子ども舞踊団招聘プログラムについての報告

ステイするなら、その前提としてこのようなプログラムを実践してほしいものである。

参考にして検討いただければ幸いである。

そして、最後の最後に、深く感謝申し上げたい。表には現れてこない実に多くの方々のご理解とご協力があつたればこそ、この国際子ども文化交流プログラムは実現できた。事務局の一端を担って、その意味の重さを実感している。端で眺めている分には、岡目八目でいろいろ気になられたことと思う。しかし、このプログラムは桃山学院一人の力量で出来たのではないことを真摯に受け止め、今後の発展に資する材料として大事に取り扱いたい。重ねて、関係下さった皆様方に深く厚くお礼申し上げる次第である。

この小論を松浦道夫学長の退職と名誉教授号授与の記念として捧げる。桃山学院大学の1期生として、本学の教育に献身的に寄与し、国際交流プログラムの拡充政策に大きく貢献されたことに感謝しつつ。

以上

2009年6月9日

インドネシア・ワークキャンプ  
引率経験教職員 各位

バリ子ども舞踊団招聘プログラム  
実行委員長 松 浦 道 夫

「バリ子ども舞踊団」招聘・アガベ・フェスティバルおよび歓迎会のご案内

「バリ子ども舞踊団」来日に際しまして、下記のとおりアガベ・フェスティバルおよび歓迎会を開催いたします。

つきましては、ご多忙中恐縮ですが、ご出席いただきますようお願いいたします。

なお、準備等の都合がございますので、6月16日（火）までに、同封のハガキにて出欠のご連絡をいただけますようお願いいたします。

記

【アガベ・フェスティバル】

日 時：2009年6月21日（日） 午後4時30分より  
場 所：本学チャペル

【学長主催歓迎会】

日 時：2009年6月21日（日） 午後5時30分より  
場 所：本学キリスト教センター集会室

※ご出欠のハガキは、チャペル事務室までお願いします。ただし、先生方につきましては、この招聘プログラム実行委員の石田（研究支援課／聖アンデレ館5階）までお持ちいただいても結構です。

以上



## バリ子ども舞踊団招聘プログラムについての報告

桃山学院中学校

2009年6月6日

### 「バリ島子ども舞踊団が来学」

交流プログラムへのおさそい

日 時： 6 月 22 日（月） 午後1時 50 分～（約2時間）

場 所： 桃山学院・8階トリニティホール

桃山学院大学は、過去22回にわたってインドネシア、バリ島で、児童養護施設の建設のために大学生ボランティアによる国際ワークキャンプをおこなってきました。現地では、ワークキャンプの開催式およびアガベ礼拝において、子どもたちが伝統舞踊によってワークの成功と発展のために、祈りをささげてくれるのが慣例行事となっています。

そして、参加者は大きな歓迎と励ましをいただき、良い国際交流、相互理解の場を与えられてきました。

このたび、学院創立125周年・大学開学50周年記念行事のひとつとして、その「子ども舞踊団」を大阪に招き、交流を深める企画が、大学キリスト教センターを中心に進められています。

舞踊団のメンバーと年齢がほぼ同じである桃山学院の中学生を訪問し、表敬と交流のときを持ちたいとの申し出がありましたので、喜んでお迎えすることになりました。

前日21日に来阪して、当日は午前中に大阪城を見学、1時からスプリングホール（食堂）で昼食を食べた後、約2時間の交流プログラムを行ないます。生徒は、中1・2生全員が参加しますが、保護者の皆様で見学希望の方は、人数の概略を知るために、一応下記申込書を担任まで提出ください。

#### プログラム内容

＊バリダンスの披露公演

＊「いっしょに踊ろうよ」・・・希望者にバリダンスの体験

＊相互紹介

＊訪問団長（養護施設長）によるバリ島の生活・風俗のお話

＊お返しプログラム（生徒たちの合唱、吹奏楽・ギター演奏）

＊桃山学院施設見学

..... き り と り .....

バリ島子ども舞踊団交流会参加申込書 6月18日（木）までに

創立125周年記念行事「バリ島子ども舞踊団交流会」に参加します

中学（ ）年（ ）組（ ）番 生徒名（ ）の、

保護者氏名（ ）

連絡先：自宅電話

## 国際交流授業

日本・インドネシア子ども国際文化交流 in 南池田

2009. 6. 23

### 「ガムランとダンス」

このたび、本校と交流のある桃山学院大学が開学50周年を記念し、インドネシア・バリから子どもを招き、ガムランの演奏とバリダンスの公演を行うことになりました。この公演にはいぶき野小学校や南横山小学校も出演します。本校も、この機会に交流を持つことになりました。

今回訪問するバリの舞踊団は、12歳から17歳までの男子12名、女子8名から構成されており、ほぼ中学生ですが最年長1人は高校生と思われます。彼らは親元を離れ寮で集団生活をし、放課後にガムラン演奏やバリダンスを習っています。日々、教会での式典や学校行事で実演をしているそうです。

ガムランとは、銅板でできた木琴のようなものです。それを、金槌のようなものでたたいて演奏します。正式には10台ほどの銅琴と大小のドラなどでリズムカルに演奏します。今、日本では癒しの音楽として注目されています。ガムランはバリ ヒンドウ教の儀式の中で用いますが、日常生活の娯楽としても親しまれています。

当日は楽器や踊りを体験できるので奮って参加してください。  
また、当日の交流の様子を40人ほどの桃大生が見学するそうなのでよろしく願います。

### ～当日の流れ～

13:00 舞踊団および桃大生来校 一行図書館へ案内

20 生徒は全員体育館へ移動

25 舞踊団一行体育館へ案内

## バリ子ども舞踊団招聘プログラムについての報告

: 3 0 交流会開始

交流会終了後、ホームルーム、下校

### 交流会要項

1. 南池田中学校生徒会より歓迎のあいさつ
2. バリのスタッフから感謝のあいさつ
3. 南池田中学校より歓迎演奏
  - ①吹奏楽演奏（約10分）
  - ②尺八演奏（約5分）
4. バリのガムランとダンス（約15分）
5. ガムランとダンスの体験（堀下を中心に積極的に参加）
6. 質問コーナーおよび交流
7. 校長先生よりあいさつ  
終了後生徒は各教室へ

桃山学院創立125周年  
桃山学院大学開学50周年記念

# 日本・インドネシア 子ども国際文化交流

## バリ子ども舞踊団来日公演

桃山学院創立125周年・大学開学50周年を記念し、  
本学と交流のあるインドネシア・バリから子どもたちを招き、ガムランの演奏とバリダンスを公演いたします。  
また6月28日には近隣小学生による伝統芸能の共演もごさいます。  
子どもたちの伝統芸能を通して、日伊の国際文化交流をぜひ御一緒に楽しみください。



雨乞いの笹踊り



子ども文楽



バリの子どもたちによるガムランとダンス

2009年6月28日(日) 本学にて 50フェスタ 同時開催

開場13:00・開演13:30・終演予定15:30

場所／和泉シティプラザ 弥生の風ホール

内容／●雨乞いの笹踊り(南横山小学校児童)

●子ども文楽(いぶき野小学校児童)

●バリの子どもたちによるガムランとダンス

先着  
200名  
入場無料  
申込不要

日時／2009年6月29日(月)

時間／12:30 開場

12:40 開演

12:50 講演……「インドネシアの児童問題とウディア・アシの現状」

13:40 開演……バリの子どもたちによるガムランとダンス

15:00 終演予定

場所／本校カンタベリーホール(学生及び一般……先着200名／入場無料・申込不要)



125th 50th 2009年は、桃山学院創立125周年・  
St. Andrew's 大学開学50周年。

桃山学院大学  
St. Andrew's University  
大阪府和泉市まなび野1番1号  
TEL. 0725(54)3131(代)

■主催 桃山学院大学  
■後援 和泉市・和泉市教育委員会  
在大阪・インドネシア共和国総領事館  
■お問い合わせ先 桃山学院大学 チャペル事務局  
TEL. 0725-54-3131(代表)  
FAX. 0725-54-3210  
平日:午前9時～午後5時  
土曜:午前9時～午後1時(日祝休)

## バリ子ども舞踊団招聘プログラムについての報告

### 「バリ子ども舞踊団」来日 懇 親 会 の ご 案 内

拝啓 新緑の候、皆様方におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、大学開学25周年を記念してはじまった「インドネシア・ワークキャンプ」も、やむなく中止の年もありましたが、今年で第23回目を迎えることになりました。大学開学50周年の今年、「バリ子ども舞踊団」として子どもたちとスタッフを招待し、別紙の日程（案）のとおり、学内および地域での交流を行うことになりました。

その日程の中で、下記のとおり子どもたちとOB・OG、そして学生たちとの懇親の場を企画いたしました。ワークキャンプに参加したときのことなどを思い出し、子どもたちと共に楽しいひと時を過ごしていただければと思います。

皆様ご多忙中とは思いますが、万障繰り合わせの上、ご参加いただきますようお願いいたします。

敬 具

記

日 時：2009年6月28日(日) 午後5時30分から午後8時00分

場 所：桃山学院大学マーガレット館食堂（聖マーガレット館2階）

参加費：5,000円（現役学生・3,000円）

誠に勝手ではございますが準備の都合上、6月15日（月）までに、同封のハガキにて、ご出欠のご連絡をいただけますようお願いいたします。

なお、この件についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

桃山学院大学 「バリ子ども舞踊団」招聘プログラム実行委員

石 田 和 代（研究支援課）

電 話：0725-54-3131（内線）2563

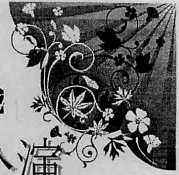
FAX：0725-54-3202

E-mail: k-ishida@andrew.ac.jp

可能な限り住所を変更された方の現住所を調べましたが、現住所が不明な方がおられます。同じ回で参加された方や、同期生でワークキャンプに参加した方などで、案内状が送られていないという方がおられましたら、案内状の内容をお伝えいただくか、現住所を上記の連絡先までお知らせいただくようお願いいたします。

以 上

# 桃山学院創立 125 周年 桃山学院大学創立 50 周年記念 バリ子ども舞踊団来日公演



2009 年 6 月 29 日 カンタベリーホール

記念講演 「インドネシアの児童問題とウディア・アシの現状」

I Nengah Seikrama, S.Pd

公 演 ガムランとダンス

ガ ム ラ ン 前 奏  
歓 迎 の 踊 り  
兵 士 の 踊 り  
水 鳥 の 踊 り  
天 使 の 踊 り  
金 鹿 の 踊 り  
ガ ム ラ ン 終 奏

バリ子ども舞踊団



## プロフィール



I Nengah Swikrama, S.Pd

バリ子ども舞踊団

イ・ヌガ・スィクラマ 教育学士

バリ州ジュンブナ県ムラヤ郡に存在するギリ・アシ養護施設で高校を卒業後、第 2 ウィディア・アシ養護施設の指導員に就任。第 5 と第 1 ウィディア・アシ養護施設の指導員を歴任。その間に本学林陸雄教授の援助によって初修日本語を修得。1997 年に本学国際交流基金を受けて来学し、本学で児童福祉について学ぶ。1998 年に総合福祉施設博愛社で実地研修を受ける。帰国後第 1 ウィディア・アシ養護施設の指導員の傍ら大学に入学し、教育学士号を修得。マビンド観光産業高等専門学校で日本語を教授。第 4 養護施設館長、タルング地区社会福祉施設協議会代表を経て、現在、児童福祉法人ウィディア・アシ本部事務局長。ワークキャンプ受け入れコーディネーター。

インドネシアのバリ島は日本の南西、時差にして 1 時間、飛行機で 7 時間ほどのところにあります。赤道をはさんで北緯 6 度から南緯 11 度、東経 95 度から 141 度の間に、東西 5,110km にわたって広がる大小さまざまな島のうちの一つです。その中央あたりに位置するバリ島は、人口 250 万人。90% 弱の人がバリ・ヒンドゥ教を信仰しています。そのバリ・ヒンドゥ教の伝統的文化の中で育まれてきたガムラン演奏とバリニーズダンスを中学生たちが披露します。彼らは、ヒンドゥ教やキリスト教の家庭の子どもたちです。家庭が貧しいなどの理由から、バリ・キリスト教会が運営する児童福祉施設で生活しています。彼らは教会や学校、施設でのいろいろな式典の中で、ガムラン演奏とバリダンスを神へ捧げます。本邦初公開の子どもたちによる公演をお楽しみください。

